

「HSK 季刊わたぼうし」 第45号

発行者:わたぼうし連絡会
発行日:1998年(平成10年)6月22日 '98 春号

第45号の特集 みんなの広場

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義・主張を超えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

《特集 みんなの広場》

女3人の沖縄旅行 地域住民・肢体障害

私がまだ高校生の頃たまたま見たTVのドキュメンタリー番組で山口県に住むCP（脳性小児麻痺）の女性（木村浩子さん）が結婚して子供を産んで、足で育て、足で絵を描いている姿を見て、私の心の中に強く残りました。手が使えなければ足を使えば良いんだと、私の人生にとって大きな影響を与えました。機会があれば一度お会いしていろんな話を聞いてみたいと思っていました。今は山口県から沖縄の伊江島に移られて「土の宿」という民宿をやっておられると聞いていました。

友人の高木栄子さんが沖縄が好きで何回か行っている時にその木村さんとぼったりお会いしたという話を聞いて、是非、私も木村さんに会いたくて、一緒に沖縄に行こうということになりました。また優子ちゃんも一緒に行きたいと言ってくれて女3人の沖縄旅行（4泊5日）となったのです。

沖縄に着いた日は気温が20度ほど富山よりも暖かく薄着で行ったつもりでも着いたとたん暑くて汗びしょりになりました。空港が自衛隊と同じ空港でびっくりしました。また空港の横が米軍基地になっていて、本当に基地の町だと実感しました。

2日目は沖縄南部の方を観光して回りました。沖縄の海が本当にきれいでした。首里城に行って感激しました。首里城正殿の階段には、スロープ・リフト・昇降機があり、2階に国王専用いすがおいてあり、昇降機に乗り見ることが出来ました。日本の観光地に行ってもこれだけ設備の整った所は滅多にないと思います。また、係の人は私に直接「どこから来たの」と聞いてこられたのも感激しました。大抵私に聞かずに一緒に行った人に聞くことが多いからです。帰りに高木さんから「これを設計した人の兄姉に車いすの人がいたらしい」という話を聞いて納得しました。

そしてひめゆりの塔、琉球ガラス村、平和の礎、平和祈念堂を見て回りました。ひめゆりの塔の記念館では沖縄戦で亡くなった少女達の写真が飾ってあり、実際に体験して生き残ったという人がその当時の事を語っていました。ここを見て、戦争の為に若い命を奪われた人達の写真を見て言い様のない怒りと悲しみを覚えました。

沖縄の料理はちょっと変わっていました。沖縄そばはこっちでいうラーメン麺が名古屋のきしめんの細いのみたいもの。ソーキそばはチャーシューメン。チャーシューが豚肉の骨付きで分厚いのが3,4個のっかっている物。ちゃんぷるはトウフと野菜と豚肉の炒め物といったところ。こっちは食べないへちまとかゴーヤとかパパイアを薄く切って使う物です。

また高木さんの案内で公設市場に行きました。そこにはいろんな店があり、富山では見たことのない物もありました。それは豚の顔の皮です。そのままの形をしていて、どうやって調理するのか不思議でした。

■沖縄県自立生活支援センター「テベの会」

高木さんから沖縄にも障害者が中心になってやっている会があると聞き、その会の人達と交流もしたいと思いました。「テベの会」です。高木さんに連絡をしてもらい、宿泊場所と車の手配もしてもらいました。

「テベの会」は沖縄県自立生活支援センターといって障害者の自立生活の支援活動を中心に行っている会です。介護サービス、移送サービス、ピアカウンセリング、介護者育成、自立生活プログラムを中心に印刷、ボランティア育成、企画（バザーやイベント）、広報、相談コーナーと幅広く活動しています。

11日の夜に「テベの会」の伊波さんと長位さんとお会いしていろいろ話をお聞きしました。今年の11月で5年になり、メンバーは10人、スタッフは4人で何の補助もなしに運営しています。沖縄は障害者に対して閉鎖的で行政も隠そうとするそうです。その結果養護学校から施設や作業所に行くといったケースが多い。その反面、沖縄の人は温かいというのは「ユイマール」のせいだという事。この意味は「お互いに助け合う」という意味だそうです。

「テベの会」についてもっと詳しい事が知りたい方は私までご連絡下さい。資料があります。

木村浩子さんにお会いして

3日目の午後のフェリーであこがれの木村さんの住んでいる伊江島に向かいました。本当に海がエメラルドグリーンできれいでした。

フェリーで約30分。港に着くと「土の宿」のスタッフの喜屋武さんが迎えに来てくれました。「土の宿」に着いて、しばらくして泊まった人が感想を書くノートがあったので書いていると、木村さんが来られて、私は感激して思わず泣いてしまいました。横にいた優子ちゃんももらい泣きしていました。そう言えば、優子ちゃんは涙もろい子だったと後で思い出して二人で笑っていました。

木村さんは「TVと現実は違うよ」と言って笑っておられました。60才になられるとか。絵は今でも描いておられて、今年の5月にオーストラリアで個展を開かれるとのことでした。娘さんはもう結婚されていて、孫がいて6才になるとかで、娘とはけんかばかりしていると言っておられました。木村さんは、とても優しい人でまたとてもおしゃれな人でした。夕食は喜屋武さんが作ってくれてとてもおいしかったです。その後、木村さんの部屋に行き、私の生い立ちや今までの事を話したり、娘さんの結婚式の写真を見たりしてしばらくの時間を過ごしました。木村さんが「せっかく来たのだから、もう一泊していけば」と言って下さったのですが、予定が変更できず残念でした。

夜、いろりを囲んで何人かで地ビールを飲みながら喜屋武さんが沖縄の民謡を歌って下さってとても良い雰囲気でした。また、向こうでしか食べられない紅芋をいろりで焼いて食べさせてもらいました。芋の色は赤紫で気持ち悪い色ですが、食べてみるととても甘く

ておいしかったです。

次の日の朝早く木村さんが散歩に行くというので、私と優子ちゃんと一緒に出かけました。海辺まで行き、そこで木村さんと記念写真を撮ってもらったり、優子ちゃんは貝を拾ったり、写真を撮ったりしていました。「土の宿」がオーストラリアにもあるんですか？と聞くと、木村さんが今度一緒に行こうと言われてびっくりしました。

散歩から帰った後、木村さんは絵を描きにアトリエの方に行かれて、私達は朝御飯を食べた後、喜屋武さんに島を観光案内してもらいました。伊江島にも米軍の訓練所があります。そう言えば、フェリーに乗ったときにもアメリカ人が軍服を着て乗っていました。戦争の時に千人が隠れたという千人洞（ガマ）、島にある変わった形の山城山と書いて「ぐすくやま」と呼ぶところ等に行きました。島には信号があまりなく、私達が通ったところで2ヶ所しかありませんでした。「土の宿」に戻ると木村さんは縁側におられました。

私は昨日書きかけだったノートに少し書いて、「また来ます」と言って帰ってきました。

木村さんは、この前の名護の市長が米軍の基地の問題で住民投票の結果反対の方が多かったにも関わらず橋本総理と会った時に賛成しておまけに自分は辞任するというひどいこと態になった時に名護市役所前でハンストをしたということでした。

今回の旅行では、一緒に行った高木さんと優子ちゃんともいろんな話ができてよかったです。また高木さんが沖縄のことに詳しく、と、「テベの会」の移送サービスを利用できたので、何不自由なく旅行することができました。ありがとうございました。今度来る時はもっと「土の宿」でゆっくりしたいと思います。何か沖縄の人に暖かみを感じました。

18年ぶりの就労 地域住民・肢体障害

私が仕事を辞めたのが発病の2年前、発病をしたのが昭和57年12月で病院のベットのうえで。何がなんだかわかりませんでした。母に「何でここに居るんだ」と聞いたら、脳内出血で手術をしたんだと聞いて全身の力がなくなりました。

左下肢、上肢の全廃の診断でした。なんと36歳でした。息子が小学校一年生、長女が小学校三年生でした。病院を二つ周り、昭和60年に社会福祉法人徳充会「青山彩光苑」へ3年間ほど入所。

その後、自宅療養となりましたが、平成元年9月、今度は脳梗塞で再発。今度は右に軽い麻痺で8キロしか握力がありませんでした。再発で杖歩行ができなくなり、現在は車いす生活です。5年ほど、青山彩光苑へデイサービスに行っているとき、現在の授産施設が「開設準備室」の段階のときでした。ちよくちよく準備室へ顔を出していたら、職員の方が「一緒に仕事をしませんか？」と言ってきたので、「左麻痺に車いすなので。」と言いましたら、「車いすや片手でできる仕事もある。」と言うので、5月、20日間程体験実習に行きました。

仕事の内容は2種類あります。①土耕のハウスはアールスメロン、ピーマン、花の苗にシクラメンですが、車いすが入らないので、私は②の水耕栽培の葉ネギ、大葉、パセリの

3種類です。ハウスは全部で十一棟ありますが、車いすで出来るハウスは二棟です。この二棟で水耕栽培の葉ネギの仕事をしています。私の主な仕事は定植と収穫後、ネギを作業場出荷出来るように調整することです。私の他に脳卒中会員も2名一緒に働いています。

私もこの病気になって、もう仕事はできないと思っていました。現在、診察日以外は、毎日午前8時に自宅へ送迎バスが迎えに来ます。仕事は午前9時から午後4時30分まで、今は青山彩光苑通所授産施設「ワークセンター田鶴浜」で毎日、楽しく働いています。皆さんも七尾へ来たら、一度是非見学に来て下さい。

現在は働く喜び、同じ仕事仲間と楽しく働いています。10月に自治会を結成して会の名称を「光彩会」とつけ、ワープロができるので書記があたりました。

現在、「富山生きる場センター」のワープロ打ちをしています。この原稿は富山桂書房さんから来る原稿です。内容は石川、富山の文献が多いです。日中はワークセンターへ仕事と、夜は明日の仕事に差し支えないように文書打ちの仕事もしています。でも、二つ合わせても納得のいくお金は当たりません。お金は必要ですが、私は現在の体でできる仕事だと楽しんで、両方の仕事に挑戦出来る限りやっつけていこうと思っています。

文書打ちの方は一文字40銭ですが、私が打った文書が本になるので楽しんでワープロ打ちをしたり、ワークセンターの仕事を楽しんでしています。

リフト付きバスを利用して

障害者支援施設・利用者

3月14日(土)に、10数年ぶりに金沢市香林坊に友人とショッピングに出かけることにしました。そのときに、友人が「市内に走っているリフトバスに乗ってみませんか？」と言われました。私ははじめのうちは戸惑いましたが、何でも体験だと思い、乗ることにしました。

久しぶりにでてきた金沢駅のバスターミナル、加賀市の施設にいたときに、今は亡き友人からバスに乗ることを教えてもらい、何回ここに来ただろうと懐かしく思いました。

さて、この日はとても寒い日でした。バスがくるまでターミナルで待つことが大変でした。

ようやくバスが来て乗ることになるのですが、車いすの人がいますと、運転手が乗せてくれます。バスの高さも一般のバスより低くなり、リフトに乗ってバスに乗るのです。

ここまではよいのですが、車いすの固定を運転手さんがするのに時間がかかるので他のお客さんに迷惑になるので心細かったです。バリア・フリーの社会実現に行政も力を入れていますが、私は小さい頃から施設にいるせいか、周囲の人が気になります。これではいけないのだと思いますが、やはり、持って生まれた性格が改善されませんね。

これは現在、金沢市内中心部しか走っておらず、乗降停留所も金沢駅、武蔵、香林坊、片町など、主な所だけのようです。

「ひまわり号」について

「ひまわり号」を走らせる石川県実行委員会

旅は楽しいものですね。次はあそこへ、その次はここへと想像するだけでも楽しくなります。でも、身体に不自由のある人にとって、旅先の階段や狭い通路、使用しにくいトイレは大きな壁となります。「一度で良いから列車に乗ってみたい」「安心して楽しい旅がしたい」という声に答え、みんなが集まり、障害者専用列車（上野～日光間）を走らせたのがひまわり号の始まりです。今から16年前のことです。そして、この運動は全国へと広まっていきました。

石川県でも、13年前より熱い思いを持った仲間が集まり、たくさんの方々のご協力の元、ひまわり号が走っています。

私たち、「ひまわり号を走らせる石川県実行委員会事務局」の紹介させていただきます。障害のある方たちが外に出るきっかけとなるよう、また私たちもたくさん仲間と出会いという思いから、年に1回から2回の旅行を企画しています。

旅に出るときには、あらかじめ事務局員が決めておいたベアを組んでもらいます。例えば、車椅子の人とボランティアの人といったように。そして、旅先での階段の昇降や車椅子の運転などのお手伝いをしてもらいます。反対に、障害のある人からボランティアの人へは、介助の仕方や声のかけ方などを自然と教えてもらうことができます。人と人が接して生まれるすてきなことではないでしょうか！！

旅先での出会いもあります。ほんの一瞬の係わりですが、車椅子の誘導を一生懸命になってしてくれる駅員さん、車椅子の準備をしてくれるバスの運転手さん、「気をつけて」と声を掛けてくれる通行人、ちょっとしたことが嬉しく感じます。同時に、みんながこんな気持ちを持ったらひまわり号はいらないと思いました。

世間では「バリアフリー」という言葉が出回っています。本当に理解してこの言葉を使っている人たちはいるのでしょうか？？まだまだ人の心の中にも大きな壁があります。でも本当の「バリアフリー社会」にするための手段を知る機会が少ないですね。ひまわり号を通して、「バリアフリー」を体験し、拾得し、世の中に広めていけたらというのが事務局員みんなの願いです。

さて、今年のひまわり号は10月に「東京ディズニーランドと浅草・東京タワーの旅」を予定しています。嬉しいことに申し込みが殺到し、定員が一杯となりました。わたぼうしの読者のみなさんには、来年のひまわり号から参加していただきたいと思います。来年の旅行が決まり次第、みなさんにお伝えできればと思っています。

石川県のひまわり号は、障害のある人もない人も、老若男女問わず、人間同士が励まし合い、支え合い、高め合っていくことを目指して走り続けています。

原稿の募集をします

・私の外出体験

あなたはどのようにして外出をなさっていますか。バス、タクシー、電動車いすなど、あなたが外出の時の工夫、体験談を募集します。

また、こんなお店、喫茶店でサービスを受けたとか、よい気持ちをしなかったなどなど……。

・教育とは何か？

最近の中学生によるナイフによる殺傷事件、高校の卒業式、入学式のボイコットなど教育に関する話題が連日報道されていますが、その背景には何があるのでしょうか。皆様のご意見をお聞かせ下さい。

編集後記

読者の皆さんお久しぶりですが、お元気でしょうか。

今年に入り、中学生のナイフ殺傷事件が相次いで起きています。何が原因なのでしょう。テレビや新聞のほとんどは学校や教師、親というように、誰かに責任転換しているようにしか思えません。

私たち一人一人が自分たちの問題として考える必要があると思いますが、いかがでしょうか。

「H S K季刊わたぼうし」の紙面を次号から、徐々に有意義な内容に変えていきたいと思えます。皆様のご意見をお待ちしております。

(Z.O)